

2021年6月8日  
長野県南信農業試験場

## フジコナカイガラムシ（カキ）の防除適期予測

**防除対象：フジコナカイガラムシ（カキ）第1世代若齢幼虫期**

**予想ふ化盛期：6月21日～6月25日**

**対象地区：下伊那地域（標高400m～700m）**

**予測防除適期**

**1回目：表1の予測ふ化ピークから1週間以内**

**2回目：表1の予測ふ化ピークから約4週間後**

本年のフェロモントラップによるフジコナカイガラムシ越冬世代雄成虫の捕獲ピークは5月16日～26日であった。そこから予測されるフジコナカイガラムシの第1世代のふ化盛期は、6月21日～6月25日である（表1）。

フジコナカイガラムシの防除適期は、若齢幼虫期（1～2齢）である。その直前の卵や成虫の防除効果は低い。

表1 フジコナカイガラムシの発育予測

調査地点	飯田市座光寺	南信農業試験場	高森町牛牧
標高	400m	560m	680m
PT*捕獲ピーク	5月26日	5月26日	5月16日
予測ふ化ピーク	<b>6月24日</b>	<b>6月25日</b>	<b>6月21日</b>
予測2齢発生	7月7日～	7月9日～	7月6日～
予測3齢発生	7月15日～	7月17日～	7月15日～

\*PT：フェロモントラップ（雄成虫）

### 防除のポイント

- 本年の予測ふ化時期は、昨年同様に標高による差がほとんど無い（表1）。
- 暖冬傾向で越冬個体数が多いため、予測ふ化時期から長期間（7月中旬まで）ふ化が続くことが予想される。
- ふ化が長期間続くことが予想される年は、1回目の防除を予測ふ化盛期に行い、遅れてふ化する幼虫を対象に、2回目の防除をその4週間後に行う。
- ふ化が長期間続いた平成29年の防除試験では、予測ふ化盛期に1回目の防除を行い、2回目をその4週間後に行った区での効果が高かった（表2）。

表2 フジコナカイガラムシ第1世代幼虫の防除時期と防除効果（平成29年、南信農試）

試験区	処理月日				100果当たり虫数		虫数増加 の割合 (②/①)
	6月20日	7月3日	7月11日	7月18日	①第1世代虫数 (6月19日)	②第2世代虫数 (8月17日)	
1	スプライト	モスピラン			0.8	2.3	2.9
2	スプライト		モスピラン		1.2	3.0	2.5
3	スプライト			モスピラン	0.9	1.5	1.7
4				モスピラン	1.4	11.3	8.1
無処理	—	—	—	—	1.3	162.7	125.2

スプライト：スプラサイド水和剤1500倍      モスピラン：モスピラン顆粒水溶剤2000倍

※ふ化予測日：6月19日及び6月30日、1齢幼虫捕獲盛期：7月6日